

提出日：令和 3 年 2 月 26 日
所 属： 獣医 学部 獣医 学科
氏 名： 田原口 智士 職位： 教授

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
目に見えないウイルスの形態ならびに構造を知り、その増殖の機序を理解する。ウイルスの基礎知識を十分に付け次ぎに続く伝染病や臨床に繋げ、獣医師国家試験に合格できるようにする。				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
微生物学	動物応用科学科	必須	2	140
微生物学総論	獣医学科	必須	2	140
微生物学各論 II(ウイルス)	獣医学科	必須	3	140
微生物学実習	獣医学科	必須	3	140
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
ウイルス自体は、五界説に分類されないものです。それが宿主に感染すると自己を複製し増殖するため、あたかも生物のように振る舞います。ウイルスの詳しい学習は、多くの学生が初めてであるため、最初は取っ付きにくいところがあるかもしれません。教科書を眺めているだけでは、その面白さが理解出来ないと思いますので、身近なものを例にしたり、最近のウイルス関連のトピックを出したりしながら、興味をもって講義を受けられる様に工夫しています。少しでも多くの学生にウイルスの面白さを伝えたい。その理解を通じて、後に続く応用科目に繋げ、最終的には、国家試験合格へ結びつけて欲しい。				
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）				
ウイルス学の内容は、既存の生物学の理解だけでは解決出来ません。従って、教科書を読んでも理解し辛いため、ウイルス学の講義・実習を受けることで教科書を理解出来るようになって欲しい。教科書の内容ばかりだと興味がなくなったり、集中力を維持出来ないと考えていますので、講義や実習時には、教科書以外のネタを仕込んで話します。座学では、スライドばかりの単調な講義ではなく、板書も行うハイブリット講義になります。講義の内容は、基本的に教科書に沿って行うため、復習もやりやすくしています。				
<u>アクティブラーニングについての取組</u> 基本的に、資格教育であるため。アクティブラーニングには不向きな内容ですが、場合によって学生に質問を投げかけたりして対応しています。				
<u>ICT の教育への活用</u> 學理を利用したミニテストや資料を作成しています。				

<p>4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）</p> <p>① <u>教育（授業、実習）の創意工夫（A）</u></p> <p>② <u>学生の理解度の把握（B）</u></p> <p>③ <u>学生の自学自習を促すための工夫（B）</u></p> <p>④ <u>学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）</u></p> <p>⑤ <u>双方向授業への工夫（C）</u></p> <p>※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）</p> <p>上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。</p> <p>学生の理解の把握ならびに自学自習を促すため、ミニテストを毎回行っているが成績に結び付けられない学生がいる。興味を勉強に繋げるレポートを課してみることも考えている。</p> <p>双方向授業は、資格教育であるためそぐわないと判断しています。</p> <p>⑥ <u>国家試験対策としてどのような取組をしましたか。</u></p> <p>国家試験準拠のミニテストを行っている。講義中には、国家試験に出た問題をトピックスに話をするようにしている。</p>
<p>5. 学生授業評価</p> <p>① <u>授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。</u></p> <p>シラバスの活用のポイントを上げようと、毎回本日の内容を先ずはじめに説明した。</p> <p>② <u>①の結果はどうでしたか。</u></p> <p>翌年の授業評価もほとんど変化がなかった。</p> <p>③ <u>②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。</u></p> <p>学生の求めるポイントを学生とディスカッションして、改善して行きたい。</p>
<p>6. 学生の学修成果</p> <p>① <u>学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</u></p> <p>微生物は、次に繋がる科目の基礎になっているため、学生に拒絶反応を持たせない様、興味をもたせる様、最近のトピックスも交えて講義に取り組んでいます。</p> <p>② <u>教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</u></p> <p>ウイルスに拒絶反応をもたない学生の増加とグットティーチング賞の授与</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）</p> <p>基本的に毎回参加し、自分の担当講義で応用できる内容は反映させるようにしている。</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）</p> <p>授業評価ならびに FD 研究会の内容を精査し、それを反映させることで、学生に評価され、国家試験合格に繋がる授業内容にしていきたい。</p> <p>ウイルス学に興味のある学生を、研究室に入室させ将来ウイルス学の研究者を輩出したい。</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ</p>